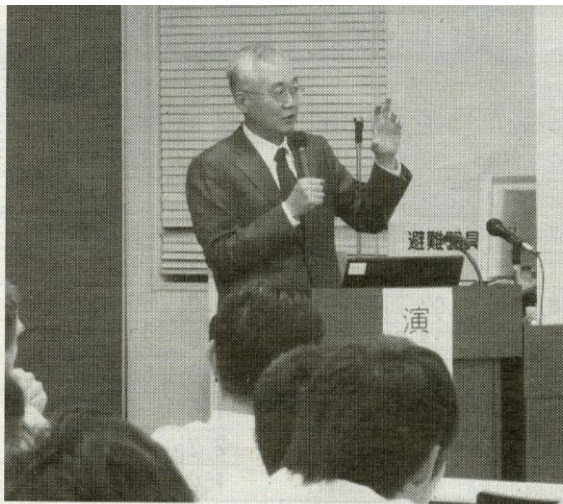


M I S t 手術に参加

ソウル大脳外教授講演

製鉄記念室蘭
胆振Spineセミナー



最新手術を説明するChung教授

室蘭市の製鉄記念室蘭病院(足永武理事長、松木高雪院長・三百四十七床)は、胆振Spineセミナーを十五日開催。ソウル大脳神経外科のChun Kee Chung教授が頸椎後縦靭帯骨化症の最新手術治療について講演したほか、十六日には脊椎脊髄センター長の小谷善久副院長が執刀した重度脊柱後側弯症の低侵襲型矯正手術(MIST)に参加した。

Chung教授は韓国の低侵襲脊椎外科学会(SMISS Korea)代表で、北海道MIST研究会代表を務める小谷副院長との国際技術交流をきっかけに実現。セミナーには市内や近隣の医師、看護師、放射線技師など医療者約七十人が参加した。

講演でChung教授は「病態によって適切な治療法は異なる。靭帯骨化症の大きさや範囲、頸椎

彎曲や不安定性などで、前方法と後方法を使い分けるべき」と語り、前方法の骨化浮上術、骨化摘出術、後方法の椎弓形成術、後方矯正固定術について、長年の臨床成績を

示して詳しく説明した。難易度が高い前方法の技術的なコツやPitfall、合併症予防の注意点なども詳述。中でも骨化の山型形状が急峻で、脊柱管内の六〇%以上を占める

OPLLが二椎体以下のものは、前方法の選択が望ましいとした。座長を務めた小谷副院長は東北・北海道で初導入した術中モバイルCT(O-arm)による高精度

ナビゲーション手術を、前方浮上術や後方矯正固定術に応用。良好な臨床成績を上げており、高精度で安全に行える同手術が全国からも注目を集めている。